

大椎っ子の田んぼ便り

高崎 みどり (千葉市緑区在住)

2008年2月、子どもたちがまだ四年生の時から、今年の米づくりは始まりました。場所は、小山町にある谷津田の田んぼです。あすみが丘のすぐ近くにあっても、普段あまり行くことが少ない地域だと思います。しかし、小山町に通っているうちに、ここは自然の宝庫、貴重な動植物がたくさんいる、静かにみんなで守っていかなければいけない大事な場所だということがわかりました。まずは、休耕田だった田んぼの田起こしからです。ボランティアの呼びかけに集まってくれたお父さん、お母さん方が、YPP(谷津田プレーランドプロジェクト)の皆さんのご指導のもと、田んぼを耕し始めました。使われていなかった田んぼには、雑草と、アシの根っこがびっしり！お父さんお母さん方は、鍬(くわ)や、スコップで慣れない手つきながら、一生懸命掘り起こしました。3月15日(土)には、四年生の子どもたちや、四年、五年の担任の先生方がかけつけてくれました。こうして、何回かの田起こしを行い、田んぼは田んぼらしくなっていました。新学期、子どもたちは五年生。そして五月。いよいよ田植えです。この秋、大椎っ子の田んぼにお米はたくさん実るでしょうか？楽しみです！

5月26日(月)晴れ 田植え前の草取り

田植えを前に、田んぼの草取りをしました。新たにボランティアに参加してくれたお父さん、お母さん方と、運動会の代休だったため参加してくれた、五年生と弟、妹さんたちと一緒に草取りです。田んぼには畦道もでき、オタマジャクシがたくさん泳いでいます。最初は草取りに励んでいた子どもたちも、だんだん泥だらけ……。オタマジャクシもびっくりです。約二時間後、雑草も取り除かれ、きれいな田んぼになりました。あとは田植えを待つばかりです。

5月28日(水)晴れ 田植え

いよいよ田植えの日です。初めて、谷津田に来た子どもたちも多かったと思います。YPPの方々をはじめ、ボランティアの保護者の方々、校長先生も駆けつけ、田植え&自然観察会が始まりました。YPPの高山さん、金谷さんの説明を聞いて、田んぼに入ります。軟らかい泥地に苗を植えるのは、難しいようです。『お米の苗って、こんなに細いんだ。』『もっとたくさん植えたいな。』子どもたちは、いろいろな感想をもったことと思います。田植えのあとは自然観察会。いろんな動植物を発見したようです。



はだしになって田植え

お手伝いいただいた父兄のみなさんからの感想です

素足で田んぼに入って田植えをする貴重な体験を子供達にさせる事ができて、とても良かったです。田植えの後、自分達が植えた稲がどうなったか知りたいらしく何度も見に行っているようです。(Y.S)

初めて案内された時は、「これが田んぼに!？」と驚きました。持ち慣れない鍬と運動不足の体が...と思いながらの作業でしたが、日に日に田んぼらしく変わり、田植えができて感動しました。収穫までの間、できるだけ子供も一緒に見守り、「食べ物を作る苦労」と「このような環境が近くにある素晴らしさ」を感じてくれたらと、思っています。(C.K)

いつもYPPの方々には大変お世話になり感謝しています。私自身は田畑に囲まれて育ったので稲の成長を見る事は身近なことでしたが実際に育てる作業に関わるのは大変貴重な体験と思っています。また毎日食べるお米を作る農家の方の大変さ、自然の大切さが少しでも子供達に伝えられたら、と思います。無事に実りの秋を迎えられますように微力ですがご協力していきたいと思ひます。(S.N)

YPPの方々には、いつも大変お世話になります。

私は米作りは初めてで、5年生の父兄のボランティアということで子供達と一緒に勉強するつもりで応募させていただきました。田植えをする子供達の顔は真剣で終えた後、足洗いを手伝いましたが、その時の顔はホッとした表情になりました。空いた時間は皆、楽しそうにカエルやザリガニを追いかけしていました。子供達のいろいろな表情や楽しそうにしているところを見ると、私もボランティアをしていることに満足しました。これからは毎月の稲の表情を見るのが楽しみです。1年間よろしくお願ひします。(K.N)

小学校の体験学習の手伝いで、初めて小山町の田んぼへ行きて、草刈りにも初めて参加をしました。子どもたちが植えた稲の生育具合は順調なのか良く分かりませんが、秋には稲穂に多くの実りがあるように少しですが手伝っていきたく思います。(S.T)

私自身、初めて田植えを体験致しました。まず驚いたのは、こんな住宅街の近くに綺麗な山々の大自然に囲まれた所があるということでした。本当に空気が美味しいと初めて感じました。子供たちは、とても幸せだと思いました。こんな近くで滅多に体験できない田植えができるなんて、さぞかし自分で作ったお米が食べられたら嬉しくて幸せでしょう。今の子供達は家でゲーム等で遊び、あまり外の自然に触れる機会がないですから、とても田んぼの土のぬくもりなどは新鮮で楽しいと思います。自然観察で様々な生き物を探して見つけて新しい発見は、とても貴重だと思いました。本当に、田植えを通して、とても貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。ボランティアをやって良かったです。まだ、これから成長が楽しみです(^-^)(C.H)



田んぼで自然観察

大椎小学校の米づくりボランティアに参加して、初めて谷津田の自然に触れました。自分たちの住んでいるこんな身近に、貴重な絶滅危惧種をはじめといたくさんの生き物が生息していることに驚きました。まさかこんな近所でサワガニに会えるとは思っていませんでしたし、両手いっぱいほどの大きさのカエルをつかんだのも生まれて初めてでした。このようなすばらしい自然環境もそのままにしておそらく失われていってしまうのでしょうか。今の谷津田の姿は、YPPの方々の肩肘はらずに楽しみながらそれでもしっかりと守ってくださっているおかげなのだ実感しています。大椎小学校の田んぼ体験はまだまだ始まったばかりですが、草取りなどにもできる限り参加させていただいて、親子で米づくりを満喫していきたいと思っています。YPPのスタッフのみなさん、これからもご指導ご支援よろしくおねがいします。(M.K)

6月17日の草取りに参加して
当日は日差しが弱く草取りには絶好の日和で、しかも参加者も多くて作業は思ったより楽でした。休憩時には田の生きものを観察することもできました。少人数だと重労働の作業でも皆で分担すれば楽にできます。これからも多くの方が参加すると良いですね。(H.T)

谷津田いきもの図鑑 No.19

タモロコ(コイ科)

7月、下大和田の谷津田や小川を覗くと、魚の群れが目につきます。この時期、群れているのはメダカ、タモロコ、フナの間です。何という種類か知りたければ網ですくってみればいいのですが、それができなくてもだいたい区別できます。

水面近くを泳いでいて、背中に黒い線があればメダカです。人が近づくとサッと泳ぎ、潜ることもありますが、じっと待っていると浮かんできます。

水中を素早く泳いでいるようならタモロコかフナでしょう。タモロコとフナを比べると、上から見たときフナの方がずんぐりとして見えます。また、泳ぎはタモロコの方が敏捷なので、だいたい区別することができます。今回はこの中からタモロコについて簡単に紹介しましょう。

まずタモロコという名前についてですが、モロコとは群子(むれこ)が語源という説があります。あるいは、「コ」というのが魚を表す接尾語<たとえ雑魚(ざこ)など>ということから群魚(むれこ)と書いたほうがよいかもしれません。いずれにせよ、田んぼの群れる魚、つまりタモロコになったと考えられます。

タモロコはスマートな体型で、体の側面えら蓋後方から尾部にかけて黒い縞がよく目立ちます。この縞は、ふつうに考えると横縞のように思えますが、魚類の世界では縦縞と呼ばれています。よく見ると口に2本のひげがあるのがわかります。体型のよく似たモツゴはひげがありませんので、ひげの有無により両者の区別ができます。

食べものはミジンコ、イトミミズ、ユスリカの幼虫など動物が主ですが、水草など植物を食べることもあるようです。

下大和田の田んぼでみられるものは、全長4cm位までの小型のものがほとんどです。田んぼで成長したタモロコは、河川に入り大きくなります。下大和田谷津田下流の鹿島川では12cm くらいの大型の個体もみられます。タモロコは、幼魚の時代を田んぼで過ごし、ミジンコやイトミミズなど豊富なえさを食べ、成長するにつれて小川や河川に進出していくのです。

このタモロコ、本州における天然分布は静岡県と新潟県以西で、関東地方に分布するものは1930年代以降、琵琶湖産のコアユに混じって放流されたものであるといわれています。いわばよそ者のタモロコですが、今ではすっかり千葉県谷津田を代表する魚として定着しています。

(田中正彦)



タモロコ・体側の黒い縦縞がよく目立つ



里山たんけんレポート

第 101 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2008 年 6 月 1 日(日) 晴れ

昨日までの冷たい雨もやみ、晴れて暖かくなったのでたくさんの生きものに出会いました。上空にはサシバが舞い、道脇では大きなアオダイショウもいました。トンボ、カミキリムシ、コメツキムシ、カメムシ、クモの仲間など、なかなか歩みが進まないほどでした。田んぼの畦はヘビイチゴが赤く実り彩を添えていました。畦からはニホンアカガエルの子ガエルがぴょんぴょん飛び出しました。田んぼの中はシュレーゲルアオガエルやアズマヒキガエルのオタマジャクシが元気に泳ぎ、メダカも群れになって泳いでいました。今年孵った子メダカも群れていました。山の中は明るくなったためか、クサイチゴが茂り、実が真っ赤に熟し食べ頃になっていて、美味しく甘酸っぱい味を楽しみました。びっしり菌が張り付いた枯れ枝には虹色に光るナガニジゴミムシダマシがたくさん見られました。生きものに圧倒されるような観察会でした。

(参加者 大人 14 名・子ども 5 名; 報告: 網代春男)

第 86 回 下大和田 YPP「古代米の田植え」

2008 年 6 月 7 日(土) 晴れ

ちょうど梅雨の晴れ間に恵まれ、日差しが出るとちょっと暑いくらいの天気でした。

古代マイ田んぼでは一面に雑草のコナギが生え始めていたので、それを抜いて田んぼを均してから緑米の田植えをはじめました。人数が少なめで古代米田んぼの半分が終わったときにはもうお昼近く。そこでひもに沿って一列に並んで植えるのをやめて、最初に 2 列飛ばしにひもに沿って植えてから飛ばした列を一人でどんどん植えていく方法に変えて何とかお昼前に古代マイ田んぼを終えました。

午後、子どもたちは「ドロリンピック」をしました。泥団子ころがし、竹引き、竹ぐるぐるに竹取物語と、オリジナルメニューに大人も子どもも真剣な顔つきでワイワイ、キャーキャー、元気な声が谷津に響き渡りました。田植え部隊はマイ田んぼに黒米を植えました。一段と人が減ったので 1 区画を植え終わったのが 4 時近く。残り 2 区画は別の日に有志が農林 1 号と赤米を植えてくれました。これで下大和田の田植えはすべて終了です。これからは雑草との戦い! みなさんのご協力をよろしくお願いします。

(参加者 大人 10 名、小学生 5 名 報告: 高山邦明)



第 34 回 小山町 YPP「古代米の田植え」

2008 年 6 月 28 日(土) くもり

梅雨の晴れ間に恵まれて子ども連れの家族がたくさん参加してくれました。生協に出した案内を見てはじめての方も大勢来て下さったのはうれしい限り。素足で恐る恐る田んぼに入ってよいよ田植えのはじまりです。ヒモに沿って一列に並び子どもたちもちょっと真剣な顔つきで一息懸命植えてくれました。泥に入るのがイヤで抱っこして田植えをする微笑ましい光景も! 一番大きなホタル田んぼに緑米、小さなアカガエル田んぼとシオカラ田んぼに黒米を植えました。終わってから別の田んぼで生きもの観察をしました。ドジョウやオタマジャクシ、ちびアカガエルなど生きものがいっぱい子どもたちの目が輝いていました。

小山もこれで田植えは終わりです。最後に「さなぶり」の具たくさんのみそ汁を食べて春から続いたの農繁期の終了を祝いました。

(参加者 大人 15 名、小中学生 11 名、幼児 8 名; 報告: 高山邦明)



下大和田の今年の田起こしと稲刈り風景が文科省関連のインターネットテレビ「こども放送局」放映され、田んぼの作業や自然の様子が見事な映像で紹介されています。ぜひご覧下さい。
子ども放送局 <http://www.niye.go.jp/kodomo-bs/> の「子どもレポート」のコーナーです。

谷津田・季節のたより

小山町

- 6月8日 ホタルブクロが開花。ナルコユリも咲く。(齊藤)
- 6月14日 すごい数のアマガエルが上陸。稲の葉にナガコガネグモの幼体が網を張る。(高山)
- 6月16日 夜、ゲンジボタル、ヘイケボタルが舞う。(齊藤・松下)
- 6月25日 連日、谷津の上空をサシバが飛翔。時に2羽が一緒に飛ぶことも。(松下)
- 6月28日 オオシオカラトンボ、コシアキトンボ、ギンヤンマと夏のトンボが舞う。畦ではミゾカクシやツククサが開花。斜面林ではミズキの白い花が目立つ。スジブトハシリグモが卵のうをくわえていた。(高山)

下大和田

- 6月7日 林縁にコムラサキが飛翔。クヌギにコクワガタが姿を現す。(網代)
- 6月18日 草取り中にピー、ピーと鳴きながら上空をタカが輪を描くように舞う。ピークイーではなかったのでオオタカかも？(網代)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも)： ちば環境情報センター (TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/)

ご注意： ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任をお願いします。

第35回 小山町 YPP「谷津田の生きものたんけん」

生きものをさがしながら谷津を散策します。田んぼの草取りもしたいと思いますのでよろしくをお願いします。

日時： 2008年7月19日(土) 10:00~12:30 *小雨決行

場所： 千葉市緑区小山町 リンドウ広場

持ち物： 帽子、長靴、軍手、飲み物、敷物など

参加費： 100円(資料代など)

第87回 下大和田 YPP「田んぼの生きものと遊ぼう！」

第88回 下大和田 YPP「かかしづくり」

7月はカエルジャンプ大会など恒例の生きものとのふれあいを楽しみたいと思います。8月はかかしづくりです。両日とも谷津の自然観察もします。8月9日は夏休み子ども自然教室も同時開催しますので、お子さん(小4~小3)はぜひこちらに参加下さい(詳細は別紙)。

日時： 第87回 2008年7月26日(土) 10:00~14:00

第88回 2008年8月9日(土) 10:00~14:00 *いずれも小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。

また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのかかしフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物： 帽子、長靴、軍手、弁当、飲み物、敷物など。かかしづくりではもしあれば古着。

参加費： 300円(資料代など)

主催： ちば環境情報センター 共催： ちば・谷津田フォーラム

第103回 下大和田 8月の谷津田観察会とごみ拾い

夏盛夏クヌギ酒場も賑わっているでしょう。生きものでいっぱい谷津田です。暑い街中を離れ、涼しい谷津田を散策しましょう。午前中はみんなで谷津を散策し、午後は田んぼの作業などをします。

日時： 2008年8月3日(日) 観察 10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動*小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合： 中野操車場向かいラーメンショップ脇に10:00(同上)

持ち物： 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費： 300円(資料代など)

主催： ちば・谷津田フォーラム 共催： ちば環境情報センター

編集後記 下大和田も小山も6月で田植えが終わりました。下大和田に加え、小山でも地元の方が耕作をやめた田んぼを有志で引き継ぐことになり、今年は田起こしから田植えまでなかなか慌ただしい日々でした。同じように日本のあちこちで人知れずアシ原に移り変わり生きものが姿を消していく田んぼが増えていくことを思うに心穏やかではありません。何とかくい止めていきたいものです。田んぼではこれから草取り、稲刈りと大変な作業が続きますが、それを楽しんでやっていくことが活動を長続きさせ、仲間の輪を広げていく秘訣だと思います。(高山邦明)